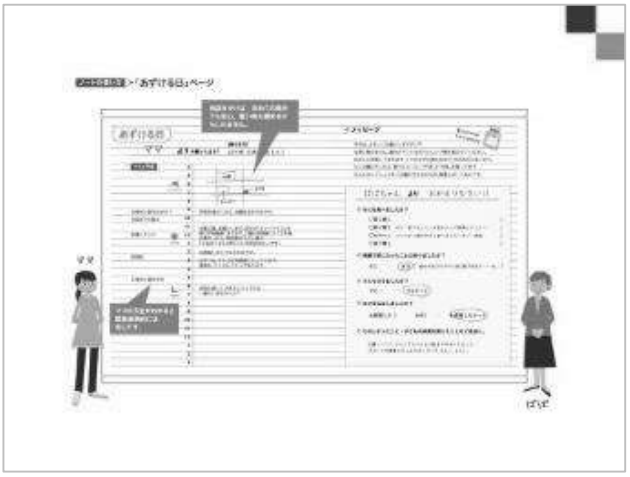
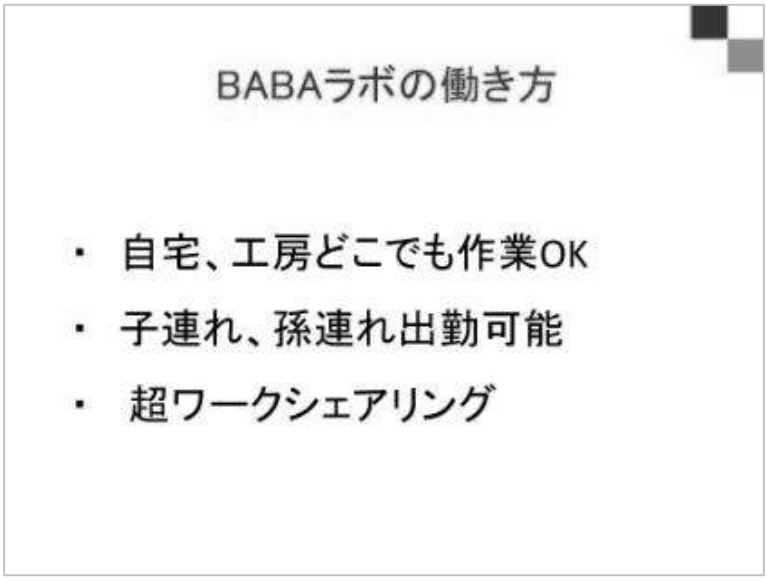


●BABAラボの働き方

ちょっと話は戻りますが、BABAラボで実際に働いている人たちは、今、登録だけだと、約５０名ぐらいの方が参加しています。５０名の内訳ですが、全部正社員ではありません。

正社員は１名と書いてありますが、私ですね。私だけが正社員で、あとアルバイトが５名おります。アルバイトのほかは、大体の方が内職の請負契約というのをしています。さっきのTシャツだったら、例えばライオンの部分の型紙を切ったら幾ら、ミシンをしたら幾ら、刺繍をしたら幾らという細かい料金表がありまして、それで一月やってもらった分を次の月にお支払いするという、そういうシステムをとっております。この内職請負契約が、今、３０代から８０代の方までいろいろいるというところですね。あとは、そういった縫い物だとか、手作業はできないけれども、やっぱりBABAラボに何かしら参加したいなというボランティアの方もいます。ボランティアの方は、この家に来て、賄いなんかを作ってくれるんですね。みんなで食べるお昼を、カレーですね、カレーを作ってくれています。ひどいときは、ひどいと言っては作ってくれる人にいけないですね、毎日カレーというときがあって、今日もカレー、明日もカレーという、賄いがほぼカレーというときもあります。



●実は若いママが多い

年代的には、実はBABAラボということで、最初は５０代から上のおばあちゃんを集めようと思ったんですが、実はふたをあけてみると、何と半分が３０代の子連れのお母さんたちと今はなっています。理由としては、最初はもちろんシニアの方を集めたんですが、このBABAラボに是非参加したい、お手伝いさせてくださいという方が増えてきて、そのお母さんたちに理由を聞きますと、自分の親は遠くに住んでいると。

でも子供が生まれて、やっぱり核家族、その小さい単位ではなくて、子供におばあちゃんの温かさというのを経験させてあげたいという理由と、もう１つは、自分が今は３０代だけれども、自分が７０代、８０代になって年をとったときに、こうやって生き生きと働いているおばあちゃんたちを間近で見ることが自分の希望になるという意見ですね。それでBABAラボのおばあちゃんたちを応援したいからお手伝いさせてくださいという人がどんどん増えまして、今、４年目に入ったんですが、気づけば３、４０代のお母さんたちがあふれているという状況になっております。

なので、実際、工房の中は、その３、４０代の方が連れてくる幼稚園のお子さんとか赤ちゃんとかと８０代のおばあちゃんと、本当にいろいろな世代の人が、あれつくろう、これつくろうと、そういう仕事の会話もあるし、昨日旦那とこんなことがあったみたいな、そういう家族の愚痴なんかも言い合ったり、そういうのをカレーを食べながら、女性っていろいろ話題が飛びますでしょう、ああだ、こうだというのを１日中、プライベートも仕事も垣根なく、いろいろな話が飛び交っているというのがBABAラボでございます。最初に来た方は、すごくうるさくてびっくりすると思いますよ。おじいちゃんとか、耳を塞いで出ていく人がいるんです。とにかく女性陣がいろいろな話題をギャーッとしゃべっているので、耐えられないといって出ていく人もいます。

●超ワークシュエリング

まとめになりますが、一応内職の仕事なので、そのBABAラボに来てみんなとおしゃべりしながら作業をしてもいいし、忙しい方は自宅に持って帰って、子供が寝てからゆっくりやったりとか、そういう方もいます。なので、作業自体は自宅工房でもどこでもオーケーです。

子連れ、孫連れ出勤可能ですね。今日は出勤日なのに、うちの嫁がお孫さんを置いていっちゃったといって、よく孫連れで来る方もいらっしゃいます。

「超ワークシェアリング」と書いたんですが、本来なら、そのTシャツを１枚仕上げる作業も、手が器用な人ならあっという間に１人で仕上がってしまうんですね。なので、本当なら、こんな４０人も５０人も関わらなくていいと思うんですが、それをあえて作業を細分化して、いろいろな人ができるようにした結果、まあ、こちらの管理は大変なんですね、ここを誰がやって、あれをやって、今月誰が幾らやったという管理は大変ですけれども、そのかわりいろいろな人が関われて、地域で、一人一人の稼げる額は少ないけれども、超ワークシェアリングということで、参加できる人は増えているという、こういった状況でございます。１人どのぐらい稼いでいるかというのが気になると思うんですが、多い月で、一番内職をやっている人で５万円ぐらいですかね、ちょうどアルバイト出るぐらい.

大体平均は７、８千円前後の人が多いですかね。全然作業をしないでおしゃべりばかりしている人は、１月１００円とか、そういう人もいます。多分タグを１０枚ぐらいつけて、あとはしゃべっていておしまいという、１月これしかやっていなかったの？　みたいな、びっくりするときもあります。まあ、そういう人もいます。なので、おばあちゃんとかは、８月は暑いから来ないでお休みとか、そういう人もいますね。もう８月は来ないわ、みたいな人もいます。その辺は自由に、だから管理側が大変ですね。さっきのアルバイト５名というのは、みんな４０代のお母さんたちが管理をしています。製造管理とか、人の管理ですね、管理側におります。

●地域にもたらす効果

BABAラボの効果としましては、シニアや、その子たちのお母さん、主婦だった人たちの、地域で人材の活用ができているということですね。あとは、これは本当に自分は意図していなかったところですが、多世代間の交流というのが生まれたと。自分も母の世代からあれやこれや言われるとどうしても反発しちゃうんですね。そこが、１個世代を飛び越えて、おばあちゃんの世代から言われたら素直に聞けるとか、そういったこともありまして、この多世代間の交流というのがすばらしいなと思っています。さっきの竹内さんのお話にあったように、自分の孫だけじゃなくて、そのBABAラボに来ている子供たちがみんな自分の孫のようにかわいがってもらっていて、そういう交流がすばらしいなと私も思っています。

あと「１人暮らしのシニアの見守り」と書きましたが、BABAラボの内職のスタッフの中には、旦那さんを亡くして一人で暮らしているというおばあちゃんも結構多くて、そういった方には、いつ来るの？　と、来なかったら電話をしたり、どうしたの？　体調が今日は悪かったのと、そういう連絡をきちんととることで、BABAラボに関わってくれる人だけに対象はなってしまうんですが、このひとり暮らしのシニアの見守りというところも多少は担えているのかなと思っております。

こういった感じで、にぎやかにわいわいやっています。またこの後のディスカッションのときに、いろいろ将来の展望とか、いろいろな苦労みたいなところはお話ししていきたいと思っております。

以上、BABAラボでした。ありがとうございました。

【朝山】　私は、大人も子供も自分を生かして生き生きと仕事をして生きていってほしいと願って活動している、キャリア教育の認定NPOの代表をさせていただいております朝山あつこと申します。

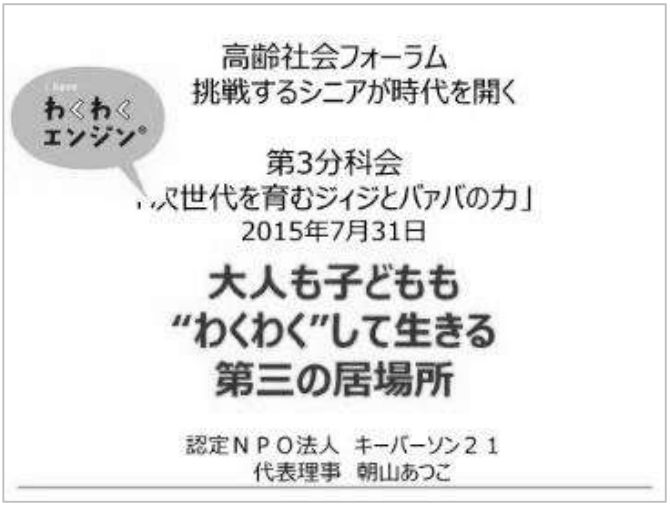
私がこれからお話しさせていただきますのは、実はシニアの世代のジィジやバァバのためにやっている活動ではないんですね。完全に子供のための問題でございまして、私は３人の息子を育てる普通の専業主婦だったんです。

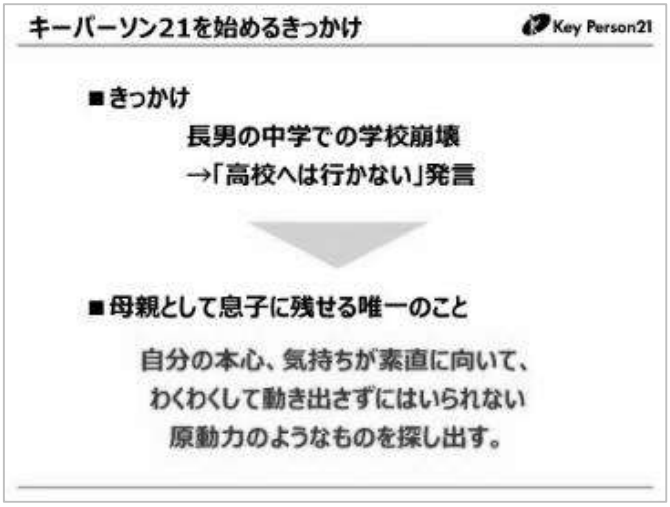
子供の学校が、長男が中学２年生のときに崩壊してしまいまして、大変な状況になったということがあったんです。長男が中学２年生、当時１３歳、１４歳でしょうか。今は３０歳になりまして家族もおりますような状況でございますけれども、そんなことがありましたので、ちょっと視点が違うかもしれませんが、御了承をいただけたらと思います。

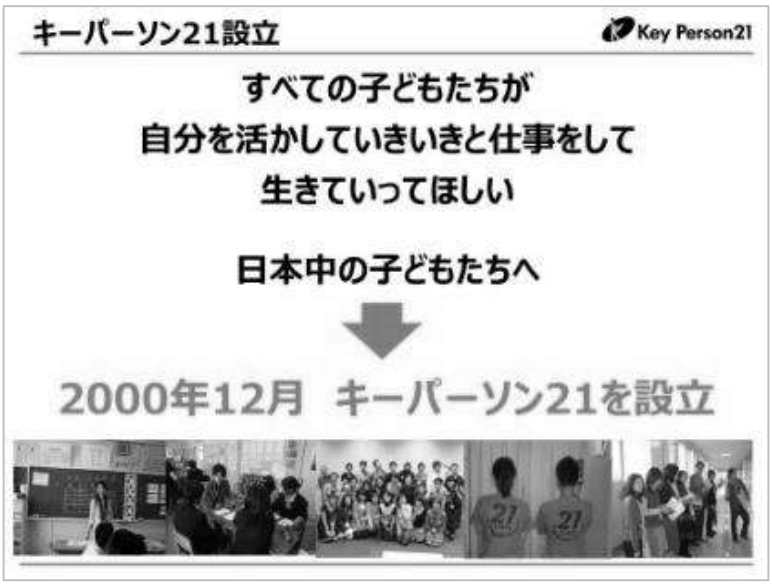
●キーパーソン２１設立の契機

きっかけは長男の中学校の学校崩壊、長男の中学校が崩壊してしまったんです。妊婦の先生がナイフで刺されて死んじゃったという事件、覚えていらっしゃいますか。日本が全国的に、そういう、学校が崩壊するというようなことがあった時代だったので、覚えていらっしゃる方いらっしゃいますね。そんなことがあった時代に、うちの長男の通っておりました中学校が、御他聞に漏れずと言っていいかどうかわかりませんけれども、大変荒れた学校になりました。

私、子育て１年生というか、１人目の息子ですから、よくわからなかったわけです。そのときに、子供たちが片や暴れる、片やおとなしく引きこもってしまう、元気がない、何が起こっているんだろうと、私は母親としてよくわからなくなりました。







何でこういうことが子供の世界の中で起きているんだろうと。先生方もすごく戸惑っていらっしゃるんですね。大変困った状況が起きていたということがありました。

そんな中で、息子が高校へ行かないと言ったんです。私、すごくびっくりして、高校へ行かないという選択肢があったのか、本当に驚きました。私は専業主婦で子供を育てておりましたけれども、核家族の中で育って、当たり前のように中学に行き、当たり前のように高校、大学に行き、当たり前のように仕事をして生きていくというように育てられてきたんですね。そんな中でおりますと、息子も当たり前のように大学に行って、勉強が好きなら大学院に行って、もしかしたら海外に留学するチャンスがあれば留学したり、で、一生懸命自分の好きな仕事をして、きれいなかわいい、自分の大好きな人と結婚して生きていくと勝手に思い込んでいた。そういうレールで生きていくんだと、３人の息子に対してですね。なので、高校へ行くのが当たり前だと。当たり前か当たり前じゃないかも考えないぐらい当たり前だったので、びっくりしたんです。これは長男に１本取られたと思いました。そのとき以来、人生というのはいろいろな生き方があって、いろいろな選択肢があって、いろいろな考え方があって、いろいろな生き方をしていくということが大事なんだ。それを決めるのは大人でも社会でもなくて、子供本人が自ら決めていくことなんだということに気づいたんですね。

●わくわくエンジンとは

母親として、何を息子に残せるだろう。財産でもないな、知識でもないな、何を残してあげられるんだろうと考えたときに、これですね、「わくわくエンジン」とキーパーソンでは呼んでいるんですけれども、自分の本心、気持ちが素直に向いて、わくわくして動き出さずにいられない原動力のようなものを探し出す、これが私が母親として唯一できる、子供に残してあげる唯一のことだというふうに思ったんです。

じゃあ、息子３人にはいろいろな経験をさせながら、いろいろな方と出会いながら、いろいろな中で自分を生かして、生き生きと仕事をして生きていってほしいと思って、それなら何とかやれるかもしれない、自分の息子たちだけなら。でも息子には友だちがいたんですね。暴れん坊になっている友だち、片や元気がなくなってしまっている友だち、その友だちとやっぱりみんなで、将来、社会に出て、仕事をして生きていくという仲間と考えたときに、うちの子供だけのためにやったのではだめだと思って、これを日本中の子供たちのためにやろう、「すべての子どもたちが自分を活かしていきいきと仕事をして生きていってほしい」、こう願って、２０００年１２月にキーパーソン２１という任意団体を立ち上げました。ですから、この時点で既にシニアのためではないんですね。子供のためにやるということを始めたわけです。

日本の子供たちの姿というのはいろいろあるんですけれども、小学生のころには、お嫁さんになりたいだとか、いろいろ楽しい思いをしているんですけれども、なぜか日本の中学生・高校生って、だんだん、どうせ俺なんかだめでしょうとか、つまらねえとか、勉強する意味わかんねーしとか、何やりたいんだからわかんないんだけどとかと言っているのが日本の実態です。いろいろなデータが出てきますけれども、白書の中にも、４０歳になったとき自分が幸せになっていると思う子供の割合が７か国中最低、これは本当の話です。大学生と言えば、就活自殺とかをしちゃうわけですね。何をやればいいんだかわからないと。まあ、最近、就活はよくなっているみたいですけれども、自殺をしてしまうなんていうことが起きているわけです。

●自分発見プログラム

それで、キーパーソンさんは何をやりたいの？　ということですけれども、これは２つ別々なのでやりにくいんですけれども、子供を中心に家庭と学校があるんです。でも子供って社会の宝ですね。行政とか、シニアとか、企業とか、団体とか、いろいろな皆さんのお力で育てていくものなんです。それを日本中の子供たちに、自分のわくわくエンジンを発見して生き生きと仕事をして生きる社会、そして地域社会、企業などを含めたあらゆる立場の大人たちが子供の可能性を引き出すために本気で力を注ぐ社会、これを作りたいと思ってキーパーソン２１を立ち上げました。キャリア教育のプログラムというものを作っておりまして、これを話すと長くなってしまうんですが、これまで１５年間の間にプログラムを受けた子供の数が３万人以上ということで、私たちは学校の授業の中で、先ほどの竹内さんと同じように、先生方に御理解をいただきながら、学校とともにプログラムを開発し、実践してきているという団体でございます。

子供にとってすごく大事なのは、この「自分を知る」ということなんですね。

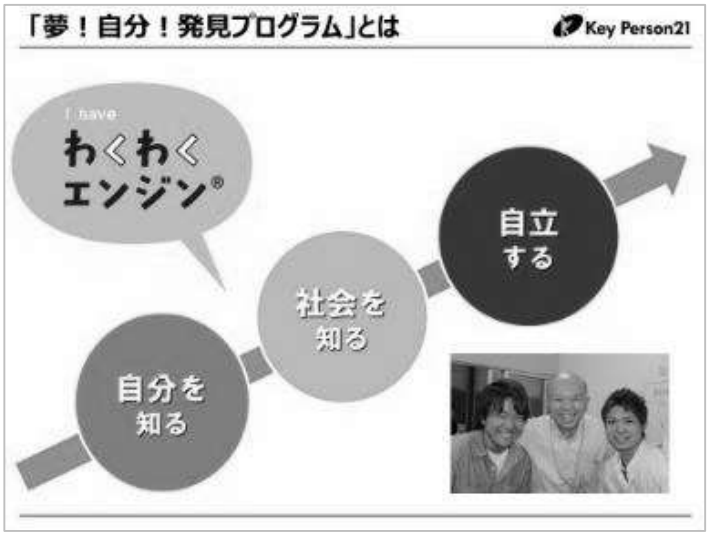
こんなことが俺は得意なんだとか、こんなことなら頑張れちゃうとかと思うようなものは何なのかを知るということがすごく大事。それから、いろいろな経験をしたり、それこそ農園の経験をしたり、BABAラボのようなところでおばあちゃんやいろいろな方と接触しながら、こういう人たちがいるんだとか、こういう考え方があるんだと多様な経験をするということをしながら、そして子供というのは自分の道を選びながら自立していくものだというふうに考えております。

プログラムは、めっちゃ楽しいゲームで作っていたりとか、大人が係わるということをすごく大事にしています。ですから、うちは教材販売会社ではありませんので、教材を子供に売って、自分でやりなさい、これで将来のことを考えられるでしょう、なんていうやり方はしていません。全て大人が係わるということを大事にしています。ですから、手間もかかるし、人の手が入っていて、１個のプロジェクトをやろうと思うと、いろいろ連絡だとかもすごく手間がかかるわけです。今日もうちのスタッフがその辺に３名ぐらいいるんですけれども、手間をかけてやってくれているわけです。

で、チームワークでやる。人間というのは一人で生きていけません。でも、ゲームが流行したりとか、一人っ子家族のお子さんが多かったりとかすると、なかなかチームワークをもって生活するということが減ってきてしまっている。こういうことを大事にプログラムを作ってきています。

●自分を生かす

先ほどから「わくわくエンジン」という言葉を使っているんですけれども、わくわくエンジンというのは何だと思います？　皆さんの中にも全員にあるものなんです。わくわくして動き出さずにいられない原動力のようなものなんです。それを探し出すということをすごく大事にしているんですけれども、それには理由があります。わくわくエンジンがわかると、エネルギーの行き先がわかるようになるんです。自分を生かすことができるようになるんですね。



●動き出せない子供たち

子供たちが迷っていて、どうしたらいいかわからないという子が、今、日本の中に蔓延しています。そういう子供たちが、一人一人がいいところを持っていて、エネルギーを持っているわけですから、そのエネルギーを引き出すということを、私たちは、今、しなくてはならない現状に日本の中が置かれています。という実態があります。昔はほっといても、さっき樋口さんのお話の中でも、「引きとめる母ちゃんを振り捨てて」だっけ、とめてくれるなおっかちゃんと言って行っちゃうみたいな話ってちょっとあったと思うんですけれども、今、そういうことって減っちゃっているわけです。出ていきなさいと言っても、一歩踏み出せない若者が増えてしまっているという現実なんです。そうすると、やっぱり大人が一人一人の子供に対して丁寧に、この子にはどういう力が潜まれているんだろうということを探し出すということを、大人側が手を尽くし、心を砕いて子供たちを引き出してあげるということが必要になっているんです。

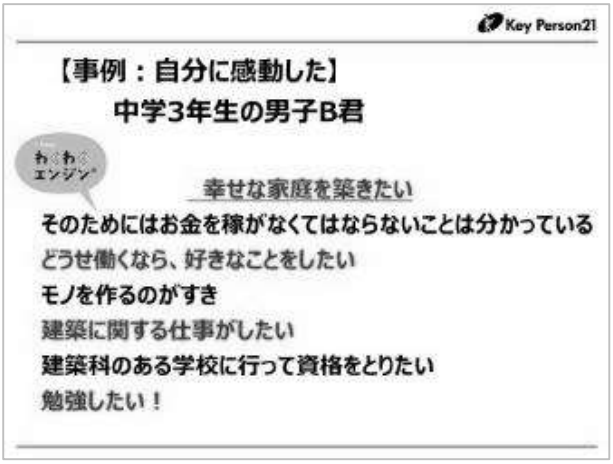
●大人が気づくべきこと

例えば、野球が好きという人、たくさんいらっしゃいますよね。野球大好き、子供も野球が好きなんですよ、サッカー人気もありますけれども。A君、B君、C君は、みんな野球が好きと言うんです。わくわくすると言うんですよ。でも大人はすぐ、野球選手になれば？　とか言うんですね。でも野球選手になれる人なんて、東大に入るより難しいじゃないですか。なれないわけですよ。そうすると中学・高校ぐらいで諦めるわけです。どうせ俺はだめだ、残念、みたいな感じになっていっちゃうんですね。でも違うんですよ。A君は、何で野球にわくわくするの？　と言ったら、作戦や戦略を立てるのがおもしろかったんだよと言うんですよ。B君は、チームで何かを達成するために自分が役に立っているのが楽しかったんだよと言うんですよ。C君は筋トレとかが好きなんですね。日々の小さな成長を感じるのがすごい楽しいと言うんです。A君、B君、C君、みんな野球が好きだけれども、その中でわくわくする理由って、結構違っていたりするんです。これって大人はなかなか気づきにくいことなんです。だから、野球といったら、その野球以外にいろいろなお仕事がある。この３つって、どれも全部、どこの会社へ行っても必要じゃないですか。作戦を立てるのも、チームのために尽くすのも、日々の成長を感じるのも、どこへ行ったって、会社の中で必要ですね。そういうことを大人が気づいてあげることによって、その子の人生とか、エネルギーの行き先が変わっていくわけです。

●一人一人を認める

私たちが一番大事だと思っていることは、一人一人を認めるという行為です。そういうことがわかると、子供は勇気を持って一歩を踏み出すことができるようになるんです。実は私たち、うちの団体にはシニアチームというのがありまして、これは子供たちが一歩を踏み出すためにやっているんですけれども、実はシニアチームがシニアの皆さんのためにやっているプログラムがありまして、それは２度目の一歩と言っているんですね。子供も大人も一歩踏み出すときにはちょっと勇気が要ったりするわけです。でも、何にわくわくするんだろう、何が楽しいんだろうとわかったときに、踏み出すことができるんです。まあ、そんなことをやっています。

わくわくエンジンがわかると、どういうふうに子供たちが変化していくかということですけれども、例えば中学３年生の男子B君、この子は貧困家庭の子供です。生活保護を受けています。私たちの学習室に通ってきている子です。僕は幸せな家庭を築きたいんだよ。そのためにはお金を稼がなくてはならないことはわかっている。でもどうせ働くなら好きなことをしたい。一生懸命働きたい。で、俺って結構、物を作るのが好きなんだよねと、プログラムをやる中で気づいたんです。建築に関する仕事がしたいと言い出したんです。どうもおじいちゃんが宮大工だったらしいんです。で、建築科のある学校に行って資格を取りたい、勉強したいと言い出したんですよ。



●目標を見つけるということ

この子はどういう子かというと、中３の９月からうちの学習室に来たんですけれども、来たとき、成績は「おいっちに、おいっちに」。５段階評価の１と２しかないんです。６時半から８時半まで学習室をやっているんですけれども、８時２５分に来るんですよ。あと５分というときに来るんですね、もう終わるというときに。わざとそうしているのか、よくわからないんですけれども。じゃあ、５分だけ勉強しようといって５分やるんですけれども、まあ、そのぐらいの子だったんです。提出物も出したことがない。高校受験をするというと内申点というのが関係あるんですね。そうすると、内申点というのが取れていないと、行きたい学校をなかなか受けられないわけですよ。「ねえねえ、提出物出している？」と聞いたら、「え、提出物？　出してないけど」って。「出すんだよ、出さないと、それ点数になるよ」と言ったら、「え、提出物って、出すんだったんですね」と言っているような子なんですよ、うそのような本当の話なんですけれども。その子が勉強したいと言い出したんです。それで、勉強してくれるのはいいんだけれども、建築科の学校に「おいっちに、おいっちに」の成績の中で行こうと思ったら、神奈川県内だと、ある何とか高校の工業科の定時制でないとなかなか難しいねという話になった。けれども私たちは全員全日制に行かせることを目標にしていたので、ちょっと頑張ったんです。そうしたら、結論、全日制高校の建築科に受かって、見事、行けたんですよ。というわけで、そのエネルギーとか、目標とか、自分がやりたいことは何なのかということが見つかったときに人間は頑張って動き出すということのあかしなんです。まあ、そんなことがありますということですね。

●貧困率の現状

子供を取り巻いて、いろいろ直面する問題がありますということです。貧困というところでいくと、先ほど澤岡さんが御説明してくださいましたので、私が説明するまでもないことかとも思うんですが、実態として知っていただきたいのは、本当に貧困率が上がっているんです。今、１６％とかになっていると思います。貧困家庭って、貧困という言葉って、困窮とは違うんですよ。困窮というのは困っている状態のことです。貧困というのは困窮よりさらに一歩進んだ状況のことなんです。まあ、そういう子たちがいる。